

12.2 反プルサーマルの日



原発はいらない！

私たちは、ただ暮らしを守りたいだけ。

2009年12月2日、九州電力は玄海原発3号機で日本初のプルサーマル運転を強行しました。通常のウラン燃料にプルトニウムを混ぜたMOX燃料を使うプルサーマルは危険極まりないものです。

当時の古川康・佐賀県知事と岸本英雄玄海町長は世界から危険を指摘されているにも関わらず運転を了解しました。3.11後の2017年、山口祥義知事は再稼働に「やむを得ない」と同意し、現在稼働中です。2020年11月には猛毒の使用済みMOX燃料が初めて原子炉から取り出されましたが、搬出先も決まらず使用済燃料プールに保管されています。

私たちは理解も納得もできないと、毎年この日に玄海町でのポスティングなどプルサーマル反対・原発反対の行動を続けてきました。今年もこの日に原発の問題点をお知らせしたいとチラシを戸別配布しています。

❗ 玄海原発プルサーマルが 何故、危険なのか。

「玄海3号機でMOX燃料を使用した場合、それ自体が実験と見なされなければならない。そして、それは、玄海3号機の事故によって影響を受ける恐れのある佐賀県民および近隣の県民が、**日本政府によってモルモットのように扱われていることを意味する。**」(2006年3月3日エドウィン・S・ライマン博士(憂慮する科学者同盟(UCS)))

🔪 **プルサーマル運転とは**、使用済みの核燃料から再処理によって取り出したプルトニウムとウランを混合した燃料(MOX燃料)を再び原発の軽水炉で使用することです。しかし**灯油ストーブにガソリンを混ぜて燃やすように、非常に危険な発電方法です。**

🔪 **では、何故そんな危険なMOX燃料を使って原発を運転するのでしょうか？**

2005年、国の核燃料サイクル政策が「使用済み燃料は再処理し、取り出したプルトニウム、ウラン等を有効利用する」と決めました。結果として日本は*注45.8トン(2021年末)のプルトニウムを保有しています。プルトニウムは長崎原爆の材料となったもので核不拡散の観点から「利用目的のないプルトニウムは持たない」決まりです。

🔪 **しかし、核燃料サイクルの中核施設とされた「高速増殖炉もんじゅ」は未完成のまま頓挫し廃炉へ、プルサーマルの拠り所とする「六ヶ所再処理工場」は着工より30年経過しても受け入れさえできない未完成状態が続いています**

しかも「高速増殖炉もんじゅ」が完成もしないまま廃炉になりました。この様に「**核燃料サイクル**」は破綻しているにも関わらず国は認めず、**プルトニウム消費のためだけに危険だと分かっているプルサーマル運転をやめられないのです。**

*注2021年末内閣府が原子力委員会に報告した数量

このようにMOXプルサーマル運転は一理もなく百害のみの政策です。その「危険と隣合わせの生活」を私たちは日々強いられているのです。



原発は「放射能被ばく」が問題です。



- ①原発は**日常的に放射性物質を空に海に放出**します。人間だけでなく、動物、植物をも汚染し、生物の根源であるDNAを傷つけます。
- ②原発から海に捨てられる「トリチウム」の量は玄海が日本一です！空にも放出しています。
- ③原発を動かすにはウラン燃料が必要で**ウラン産出国の地域住民や、採掘労働者、運転に係る原発労働者が被ばく**します。
- ④事故が起これば放射性物質がまき散らされます。住めなくなる地域もできます。

人は放射能を無害に出来る力を持っていません。これ以上増やさない事しかできません。



原発で事故が起こった！ 家やふるさとを捨てて逃げられますか？

原子炉は、**電源喪失すると22分でメルトダウン**するのです。その時間内に逃げるのができますか？

今の避難計画は、「**被ばくしながら逃げる**」ことになっています。

?? 本当にすぐ知らせが来るの？放射能がやってきているのをどうやって分かるの？放射能の風だったら、どう防げばいいの？どれだけ被ばくしたか、教えてくれるの？ちゃんと逃げる事が出来るの？いつ家に帰れるの??

原発事故は突然起きます。原発事故は人災です。

なぜ九州電力という一企業の利益のために、私たちがふるさとから逃げなければならないのか？

福島原発事故が教えてくれたことは、「もう原発を動かしてはならない」という事。



原発を動かせば、「核のごみ」がどんどん増える!!

①原発を動かせば、猛毒の使用済み核燃料が必ず出てきます。搬出先と言っている六ヶ所村の使用済み**核燃料プールはすでに満杯(98.9%)**。再処理工場は**26回も「開業延期」**。未だ完成していません。国の進める“核燃料サイクル”は破綻。最終処分場所も方法も決まっています。10万年管理が必要です。

②玄海原発の使用済み核燃料プールの貯蔵率は89%(東京新聞2023年3月)にもなり、2～3年で満杯状態。増える使用済み燃料のために、プールの容量増し(リラッキング)と乾式貯蔵建設が進行中。

③使用済み核燃料プールの「リラッキング」は、燃料をぎゅうぎゅう詰めにして貯蔵量を2倍にする危険極まりないもの。

④「乾式貯蔵施設」は異常があっても蓋を開け点検・修理が出来ません。「六ヶ所再処理工場」は完成の見込みが立たないために、この核のゴミは、玄海原発の敷地内に永久に溜め置くことになります。

⑤使用済み燃料は熱を出し続けるので冷やし続けなければいけません。加えて使用済みMOX燃料は発熱量が高く、危険性が高まります。

普通の企業なら、廃棄物の処理方法、場所を確保してから製造するのが常識。ごみの管理が10万年！場所も未定！なのに、まだ増やそうとしています！

❗ 玄海原発は本当に「事故」を起こさない？

🔪 **火災**：玄海原発敷地内で2019年12月変電所火災、続けて2020年9月仮設電源盤付近で火災発生。度重なり県も視察し対策徹底を指示。しかし2021年8月原子炉補助建屋に焦げ跡が見つかり、11月16日には再び特重施設の工事現場で火災発生。「**総点検をして深掘りをしたつもりだったが、…**」と九電社長。私たち住民の生命・生活を守れる確信がないなら、**直ちに原発の運転を中止**するべきです。

🔪 **配管**：原発内の配管総延長は約150kmにも達します。2007年の2号機の余剰抽出系配管のひび割れは、1991年から発見されるまで**定期検査でも発見されず15年も放置されていました**。「全部の配管のチェックなど出来るわけがない」。「最重要の配管でも10年で25%の点検をしている」と九電。点検を終了するころには原子炉はすでに寿命となっている計算だ。

🔪 **検査体制**：原発の安全性は原子力規制委員会が検査、監視するという法律でしたが、2020年4月1日より事業者が自身の原発の運転管理の報告を行い、その報告に基づいて規制委員会が監視を行うという信用ならぬ検査体制に改悪されてしまいました。



2018年3月
再稼働7日後
玄海3号機
蒸気漏れ事故

九電に自身の原発の検査を委ねてしまって、安全性は保たれるのでしょうか？

